

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390100867		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホーム あそうだ		
所在地	熊本県熊本市北区麻生田2丁目5番41号		
自己評価作成日	平成24年6月30日	評価結果市町村受理日	平成24年8月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成24年7月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ユニットケアにおいて、認知症であっても、お一人お一人が御自分のペースでゆっくりと時間を大切に過ごす事が出来る様に支援しています。又、入居者様、お一人お一人が、地域住民のひとりとして、地域交流として、いきいきサロンへの参加、地域の保育園児、老人会との交流支援により笑顔で安心して楽しく生活を送れるように支援をしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

昔ながらの建物や味わいを残す住宅街にあるホームは、開設時から地域の中で過ごすことの大切さを心がけホームパンフレットにも、地域の方に最も愛されている花(マリーゴールド)がホームの外観とあわせ表紙を飾っている。法人代表者をはじめ全職員が参加して開催される検討部会など、職員の意識向上やレベルアップに繋がるよう会議や研修会の開催など法人一丸となって取り組み、開かれたホーム運営を目指し会議の中でも問題提起を行っている。性別や年齢、経験などバランスよい職員配置により入居者一人の希望や要望に応える個別支援に取り組み、本人らしい自立支援に繋がるケアが実践されている。今後も職員の持ち味を活かし入居者が穏やかな時間を継続できるようなホームの取り組みに期待したい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	愛誠会建学の精神「愛情・真心・敬い・慈しみ・いたわる心」平成24年度スローガンを玄関、スタッフルームに掲示し、また3ヶ月に1回の夕礼・月に1回の検討部会・スタッフミーティングに唱和を行い理念の共有と実践を行っている。	地域の医療・福祉に取り組む法人の建学精神を基本に、地域密着型事業所としての意義を踏まえた理念を作成している。又、より身近な介護の目標として掲げるスローガンは年度末に見直しを行い、理念等と併せ唱和や掲示により職員のみならず、来訪者にも啓発を行なっている。職員採用の際も理念の説明を行い、志を一つにしてケアに当たる事を伝えている他、運営推進会議メンバーをはじめホームに関わる全ての方々への浸透に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事参加として麻生田公民館でのいきいきサロン等へ参加。地域ボランティアの方々には施設行事に来館頂き、歌、踊りを披露して頂いている。また地域の保育園、社協とも連携しご利用者と子供との交流の機会を設けている。	地域の中で過ごす事の大切さを十分認識しながら、全入居者ではないが公民館で開催されているいきいきサロンへに出かけたり、保育園児の来訪も行なわれている。又、傾聴・歌・踊り・餅つき時の地域ボランティア等入居者と地域の方々との交流を楽しまれる様子は記録や写真の掲示からも確認された。この夏は地区小学校で開催される地域の夏まつりへの参加が予定されている。	今後も子ども会や老人会との連携を図り、地域の方々が気軽にホームを訪れ入居者・職員と交流できるような環境作りに努めたい意向である。これからの取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設してから地域との連携を活発に行っている。今年度も地域の老人会、保育園、ボランティアとの連携を図る。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施しており、社協、自治会、ご家族様から事業所に対する意見や要望を聞き、事業所の運営やケアサービスに取り入れるようにしている。	定期的開催されている会議は、これまでの平日から土曜日に変更されメンバーの参加しやすい環境となっている。会議ではホーム内の取り組みや現況報告と併せ、外部評価についても説明が行なわれ、会議の中で得る地域の行事や見頃の花見情報は入居者の外出支援にも繋がっている。又、会議録は家族に送付したり、外部評価結果と共にホーム内に掲示する等、開かれた取り組みの姿勢が窺える。	今後は参加メンバーにも工夫する事でより有意義な会議となっていく事が期待される。

己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市高齢福祉課から介護相談専門員が毎月来館されている。取組みとして、ご利用者のニーズを第三者の立場で聞き取って頂き、その報告書を基にケアサービスや施設運営に活かしている。	市担当窓口を直接訪れる機会は少ないが、毎回運営推進会議の案内を通し、ホームとの協力関係に努めている。又、毎月の介護相談専門員の訪問時にはホームの現況を伝えながらサービスの向上に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の排除マニュアルや過去の事例などを活用し、全職員を対象とした勉強会を研修計画に基づいて行い、スタッフ間による話し合いを重ねている。	ホーム独自のマニュアルを作成し、研修会の開催や玄関に具体的な行為を掲示し啓発を行なっている。又、スピーチロックや入居者の思いを大切にされたケアについて管理者は日頃より気付きを述べながら指導を行なっている。不穏や帰宅願望の方へも職員が同行し近隣を散歩したり、落ち着かれる場所(居室やリビング等)で傾聴する等、行動を制限しない対応を大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法関連法に関する職員研修を行い、利用者本位のケアに活かす試みを行っている。入浴時等、ボディチェックを行い、虐待が見過ごされないよう職員一人ひとりが心がけケアに当たっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名のご入居者の方が利用されている。日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する職員内部研修を行い、今後のケアに活かす試みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	定期的に研修会を行っている。また契約時には、契約書とは別に重要事項説明書を項目毎に分かり易く説明しご了承頂いた後、署名、捺印を頂いている。改正時も同様で、変更合意書の取り交わしを行っている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回運営推進会議にご家族にも会議メンバーとして参加して頂き、ご本人及びご家族の要望、施設運営についての率直な意見を頂いてる。ご家族様満足度アンケートの実施により意見を頂き、運営に反映させている。	日々の関わりの中で入居者と信頼関係を築き、意見や要望の把握に努めている。家族からは運営推進会議をはじめ、アンケートの実施や入居時に公的相談窓口についても説明を行なっている。又、ホーム便りに毎回、気軽に訪問して欲しい事を記す等訪れやすいホーム作りに努めている事が窺える。歌番組が好きな入居者の家族からテレビ視聴の要望を受け、現在は歌謡曲番組の時間には殆どの入居者がリビングに集い、番組を楽しまれている。	実施している家族アンケートを、入居者の状態やホームの現況に応じた内容に見直し実施していく事で、更にホーム運営や個々に応じたケアサービスに繋がっていく事が期待される。
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者、全職員が参加する質の向上を目的とした検討部会を月1回行ってる。その際、職員から意見、要望を出して貰う事によりケアの現状、課題を全体把握し、スタッフの質の向上や目標の共有化を図っている。	代表者をはじめホーム全職員が集まる月一回の検討部会は法人の理念を確認し、質の向上に努める他、意見・提案を受け入れている。法人統括責任者は職員との個人面談を行なう他、機会あるごとにホームを訪れ、管理者と共に入居者や職員と関わりながら意見・要望を確認している。この夏、職員企画による家族を招いてのランチパーティが予定されている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者、職員の勤務状況の業務スケジュール等把握し無理、無駄のない業務確認を行い、毎月のスタッフミーティングにより職員からの意見を取り入れている。又、定期的な個別面談を行い意欲の向上に努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内、法人全体での職員研修を定期的実施している。職員個人の達成レベルに応じたカリキュラムを整えた、通年の目標達成計画を作っている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設見学を行い、市内の同業他事業所との職員間、利用者間ネットワークを育て、相互理解、質の向上に努めている。		

己自部外	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人、家族、担当ケアマネジャーにお会い、カンファレンスを行いご本人の身体、精神状態等を確認し生活がスムーズに出来るように準備している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、今までの生活スタイルや家族の介護経験を聞き、本人のより良い生活が継続できるよう準備している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入にあたってはグループホームの介護のみではなく、今までのサービス内容が継続できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の手伝いや片付け等を一緒にしたりして、暮らしを共にする者同士の関係作りを目指し支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に本人に関することは、相談した上で、共に本人を支えていく関係を築けるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った場所での神社のお参りなどを大切に、個別援助計画による個別バスハイイクや散歩で寛ぎの場所となるよう支援に努めている。	入居者一人ひとりの馴染みの場所(神社・公園・行きつけの美容室等)への外出や、趣味・特技(らっきょうや梅干漬け・書道等)を継続して支援している。又、入居者にとって一番大切な存在である家族との関係が途切れないよう手紙のやり取りや電話、家族の来訪時にはゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身体レベルに即した席割りや部屋割りを行うことで、利用者同士が関わり合える環境を作っている。ご利用者の趣味、嗜好にあったレクリエーションを実施することにより孤立せず楽しい生活の場を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み			

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
		サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を通じて本人の意向を確認し、その人らしい生活ができるような支援に努めている。困難な場合は、家族から情報を収集して本人の思いに沿うように努めている。	入居者の担当職員二名を中心に、居室でマンツーマンでゆっくりと話を聞いたり、日常の関わりの中で思いや意向をくみ取っている。又、家族からの情報も大切に、面会時や遠方の場合は電話等でも連絡をとりながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同じ方であっても、同じ1日の過ごし方ではないため、記録や申し送りを通じて、心身の状態も含め総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行っている。スタッフミーティングで意見を出し合い、本人らしい自立支援出来るような介護計画を作成している。	個別記録に記された内容や担当職員をはじめ、全職員の気付き等を共有しながら、医師や家族等関係者の意見を反映し、本人らしく日々を送れるよう現状に即した介護計画を作成している。管理者でもある介護計画担当者は、ホームで“今”を過ごす入居者・家族の思いに応える事が出来るよう食事や趣味の時間をはじめ個々の希望を取り入れたプラン作成に努めていく事を日頃より申し合わせている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容・結果・気づきを個別記録に記入し、職員間で情報を共有している。関係者間での協議により介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化			

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応する為に個別バスハイクを計画したり、柔軟な支援により、はりのある生活を継続して頂けるよう努めている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部からのボランティアや保育園児との交流により、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続している。受診は家族対応を基本に事業所としても一人に対して、2週から4週に掛けて外出支援にて受診し、対応に努めている。	母体医療機関や協力医が点在する立地条件の中、日頃より入居者の情報提供に努め、連携をとりながら支援している。訪問歯科による医師の来訪も単なる形式的なものに終わらず、個々にゆっくり時間をかけ対応している。入居後かかりつけ医を変更される場合もあるが、入居者や家族の希望するかかりつけ医を引き続き支援している。受診時は家族の協力も得られており、必要によっては職員も共に同行している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々の観察やバイタルの中で、利用者の状態に変化がある時はもとより通常もかかりつけ医に相談し、緊急時は主治医、ご家族と相談し、緊急受診が出来る様に体制を整えている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院となった時はもとより普段から介護情報の提供を行っている。治療中は医療関係者との連携を取って情報を収集し、退院後のスムーズな支援体制に努めている。		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援		医療行為の継続性を退所の目安として、	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化した場合や終末期のあり方についての話し合いを行っている。又、運営推進会議でも施設の取組や方針を報告し理解が得られるよう努めている。	利用開始時に説明しているが日々のバイタルチェックや、表情、行動から異常の早期発見に努め、医療機関と連携しながら重度化に繋がらない支援に努めている。特に食事コントロールについては法人医師や栄養士による助言、指導により体重の増減に配慮している。ターミナルケアの研修や心配蘇生法の勉強会を通じ、職員の意識向上と緊急時対応のレベルアップを目指している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制や事故発生時のマニュアルは用意しており、心肺蘇生法について勉強会をしている。その為、職員が急変時に落ち着いて適正な対応が出来るよう、研修を重ねて行きたい。		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策の基本である火災避難誘導の訓練を夜間と昼間想定で年2回行っている。夜間想定での避難訓練ではご利用者にも参加いただき、避難誘導し難い点、対策について話しあっている。	消防署参加による年二回の火災訓練の他、バケツリレーを取り入れた自主訓練や、地域主催の防災訓練にホーム担当者が参加している。消防隊員による地震や風水害についての講話やAEDの講習など、職員の危機意識の向上を図り、火災については日頃の安全点検により、先ずは日を出さないことを念頭においている。	火災訓練時の事前告知を近隣に行っているものの、参加までには至っていない。住宅地であることから住民への協力依頼が望まれる。備蓄については今後、系列事業所と連携しながら準備を進めるとしている。対応に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36 (14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルを基に勉強会を開催し、言葉掛けや対応などプライドを損なわないように、またケアの場面において一人ひとりのプライバシーが確保できるケアにあたっている。	昨年度よりホームの課題として掲げている接遇について、検討部会の中で話し合いを重ねている。テーブルで作業する入居者に腰をおろして語りかけたり、行動をゆっくり見守る職員の姿が確認された。又、排泄などプライバシーに関する事項には個人名を使わず、職員間で取り決めた呼び方で統一し、入居者への配慮を心がけている。個人情報に配慮し面会簿の記入方法も改善されている。	接遇マナーは全ての基本であり、当ホームが継続して課題として取り上げていることを評価し今後にも期待したい。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援			



己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	グループホームは生活の場所であり、時間で束縛する事なく、自己決定が出来る環境作りに努めている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、趣味、嗜好に基づいてご本人に自由に過ごせるように環境作りに努めている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けを行い、本人が着たい服を選んで頂いている。希望があればなじみの美容師に訪問を依頼するなどして、本人の個性が維持出来るように支援している。		
40 (15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者が無理の無いよう、出来る範囲で食事の準備や片づけを職員と一緒にやっている。	法人栄養士の助言を受け、入居者の好みや健康状態に配慮し、担当職員が食材を盛り込んだ献立表を作成している。一日のスタートである朝食を毎回セレクトメニューとし(例:ご飯又はパン、味噌汁又はコンスープ)入居者に選ぶ楽しさと、ゆっくり食事を摂る時間を提供している。この一年食材の買出しを業者による納入に切り替え、支援の充実にあてるなど改善を図っている。入居者も下ごしらえや茶碗拭きなど出来ることで食に関わっている。	職員は持参した弁当などを一緒に摂っているが、入居者と同じものを食べることで気持ちを共有できると思われる。味や量の確認を兼ね、一名でも検食が出来ないか検討いただきたい。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスにおいては法人の管理栄養士に相談している。また、水分補給をまめに行っている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けの方、見守りが必要な方、介助が必要な方と個々に応じてケアを行っている。状態によっては訪問歯科により口腔内のフォローをして頂いている。		
43 (16)	○排泄の自立支援			

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、排泄のパターンを把握し、自立に向けた支援を行うよう努めている。	個々の排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行いながら日中はトイレでの排泄支援に努めている。又、状態に応じた排泄用品を検討しながら、自立や気持ちの良い排泄に繋げている。夜間のみ使用される方のポータブルは洗浄や消毒を行い、日中は別の場所で保管する等居室環境やプライバシーにも配慮し取り組んでいる。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用しながら、排便コントロールに気をつけている。自然排便を促す為に、適度な運動(ラジオ体操)や水分補給の声掛け、腹部マッサージ等を施行し便秘にならないように努めている。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日お風呂を準備している。1日おきの入浴を目安にしているが、希望があれば入浴日でなくても入って頂いている。	毎日入浴の準備を行い、隔日の支援としているが希望に応じながら一人ひとりゆっくりとした入浴支援に努めている。脱衣所や浴室共に気持ち良く使用できるよう整頓や日々の掃除を行なっている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて、その時々状況に応じて見守ったり、温度調節をしたり、布団掛けの調整で良眠できる睡眠を目指している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理は職員が行い、服薬の際は、服薬ダブルチェック表を作成し、飲み忘れや誤薬防止の為の取り組みを行っている。名前を声に出して細心の注意を払いケアに当たっている。服薬が原因と見られる体調不良時は主治医に相談している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせ、食事の片付けなど利用者が出来ることは無理強いせずに見守っている。		
49	(18) ○日常的な外出支援			

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や菅原神社へのお参りなど外出の機会をつくりまわりの景色や季節を感じて貰っている。家族にも外出支援の協力をして頂いている。	天候や入居者の体調にも配慮しながら、近隣の散歩や地域のサロン・夏祭りに出かけたり、季節の花見(桜・コスモス・ばら等)やドライブ外出を楽しんでいる。これらの外出の様子はホーム便りにも掲載され家族にとっても安心や楽しみに繋がっている。この夏は地元の小学校で開催される地域の夏祭り見学を予定しており、入居者が安全に楽しい外出となるよう職員間での検討が行なわれている。	町中にありながらも昔ながらの家屋や自然環境に恵まれており、今後も家族の協力を得たり職員の発案により入居者のADLや希望にも配慮した外出支援が展開されていく事に期待したい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、お金を持つこと、使うことの大切さを理解しており、実際に欲しい物を購入出来るよう、自立支援を行っている。同時に家族同意の下で事業所預かり金がある。必要とあらばお金を預かり管理を行っている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の今までの関係性を壊すことなく、手紙や電話のやり取りを支援している。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光彩や室温に気を配り、空調の管理を常に行なっている。ラジオやBGMとして音楽を流すことにより、居心地よく過ごせるようしている。花を生けたり季節の創作物を掲示したりしている。	玄関先には入居者と一緒に花苗が植えられ、リビング・洗面台などホーム内も花々や植物を飾る等職員のアイデアが活かされた季節感のある空間となっている。食堂とリビングを建物の両サイドに配置することで入居者の気分転換を図り歩行訓練の場ともなっている。又、ラジオやBGMの音量だけではなく、職員の発する声のトーンについても大切な空間作りとして不快にならないように十分配慮している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり			

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビング、ダイニングと複合的に利用することにより、開放的な空間で思い思いに過ごせている。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた調度品を居室に設置することにより、居心地よく過ごせている。	入居者にとって馴染みのある花の名前(あじさい・ひまわり等)を居室名とし、掃き出し窓のある部屋は温室度計の設置や日々の換気により安全に居心地良く過ごせる取り組みがされている。馴染みの品(テレビ・時計等)の持ち込みや写真・やりとりされている手紙の掲示など家族の思いが伝わる部屋となっている。	今後も担当職員を中心に居室内の掲示物の確認を行ったり、本人・家族と相談しながら入居者の思いに添った居室支援に期待したい。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かる様に掲示物として「御手洗」の案内表示をしている。安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		